

報 告

2016年10月～12月支援分

〈バングラデシュ〉

●学校校舎建設

10月30日、DCEFの学校建設基金で建設されたカパシア郡のアラル中学校の竣工式が行われました

●トイレ寄付

・辻昌子様よりカパシア郡の学校へトイレを1基
・甲南女子「世界子ども基金クローバー会」様よりカパシア郡の学校へトイレを1基

●その他の寄付

・「第44回大田区生活展」様よりカパシア郡の2つの学校へ机とイス各10セット
・甲南女子「世界子ども基金クローバー会」様よりカパシア郡の3つの学校へ机とイス各10セット、YURIKOエンゼルスクールに図書とスポーツ用具一式

〈国内活動〉

●12月、さいたまのJR浦和駅前、大阪のJR天王寺駅前で街頭募金を行いました。多くの方々にご協力いただきありがとうございました。

お知らせ

会員総会 3月10日(金) 13:30～

会員の方には後日案内をお送りしますので、ご出席下さいますようお願いいたします。

編集後記

今回のエンゼルニュースの原稿作成はなかなか難航しました。理由はボランティアさんの35年の思い出です。「あんなこともあった、こんなこともあった」気付けばアルバムを机の上に置き、思い出話が止まりませんでした。もちろん2ページでは全然足りず、また次号に持ち越しとなった話もたくさんあります。皆さま、次号も楽しみにしてください。

2017年 行事予定

1月現在

2月	4日(土)～5日(日)	ワンワールドフェスティバル	扇町北区民センター	大阪市
	5日(水)	春のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市
4月	24日(月)～5月1日(月)	スタディツアー	バングラデシュ	
	4日(日)	楽しいボランティアひろば	本協会ボランティアセンター	伊丹市
6月	23日(金)～30日(金)	スタディツアー	バングラデシュ	
7月	29日(土)	チャリティイベント	アイフォニックホール	伊丹市
8月	4日(金)～11日(金)	ファミリーツアー	バングラデシュ	
10月	18日(水)	秋のチャリティバザー	本協会ボランティアセンター	伊丹市

※その他詳しいことは、事務局までお問い合わせ下さい。

バングラデシュツアー

●第1回 4/24(月)～5/1(月)



〈スタディツアー〉
バングラデシュのお正月イベントなど

●第2回 6/23(金)～6/30(金)



〈スタディツアー〉
識字教室、職業訓練所卒業式など

●第3回 8/4(金)～8/11(金)



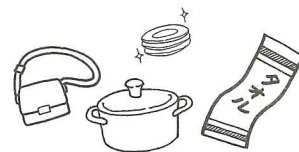
〈ファミリーツアー〉
お子さんやお孫さんと一緒に貴重な体験を
※詳しくは事務局にお問い合わせください

イベント情報

4/5 春のチャリティバザー (水)

場所: 本協会ボランティアセンター (伊丹市)

時間: 10:00～14:00



チャリティバザーにご協力ください

バザーで販売する品物のご提供をお願いしています。食器・なべ類、寝具、タオル、衣料、食料品、石鹸、カバンなどいつでも受付けています。ご近所でしたら引き取りに伺います。事務局までご連絡下さい。

☆取り扱っていないもの☆
大型家具、使用済み食器等

会員募集

本協会の活動は皆さまの会費の他、募金や寄付金、バザーなどのチャリティイベントの収益金によって支えられています。ご協力をお願いいたします。

●正会員

一般会員 年額1口 6,000円
特別会員 年額1口30,000円

●DCEF会員(教育里親)

1ヵ月1口 2,000円

※送金方法は現金書留又は郵便振替でお送り下さい。

郵便自動払込方法も受付けています。

郵便振替・口座番号

01130-1-59586

※その他、バザー用物資によるご協力もよろしく願います。

会員数: 一般会員 737名

DCEF会員 837名

(1月1日現在)

国際エンゼル協会は1982年伊丹市において設立され、「世界に愛を」をスローガンに、発展途上国への理解と協力を通して国際間の友好を深めると共に、すべての人々が共存できる平和な世界の実現に寄与することを目的としています。

発行者



特定非営利活動法人

国際エンゼル協会

〒664-0862 兵庫県伊丹市若菱町6丁目10番地
TEL.072(784)7504 FAX.072(784)4608
Home Page ● <http://www.angel-ngo.gr.jp>
e-mail ● post@angel-ngo.gr.jp

ANGEL NEWS

通巻178号
2017.01

謹賀新年



ありがとう35周年



ボランティアの皆さん大集合

「ふれあう心のぬくもりを 感じあえたら
愛のあふれる言葉に 出会えたら
世の中がもっと幸せになるのではないかしら
そんな心から“エンゼル”が生まれました
一人でも多くの人に 心豊かに生きて欲しいと願っています」

1982年に創立した国際エンゼル協会は、今年で35年を迎えます。当初は障害者施設へボランティアに行ったり、国内を中心に活動していましたが、日本だけでなく世界に目を向け貧しい人々の役に立とうと海外活動へ発展してまいりました。

特に1985年からバングラデシュに事務所を置き、私達独自のプロジェクトを進めてきました。今迄育ててきた子ども達、奨学金を渡した学生達、様々な研修を受けた女性達の成果も見えてきました。また、支援して下さっているボランティアの人達も多くの人とふれ合い、豊かな人生を送ることができていると喜んでおられます。

世界もいろいろ変化してきていますが、私達は変わらず身近なところから助けあい、明るい社会になります様活動していこうと思っています。今年もよろしくお願いいたします。

代表理事 東村 真理子

バングラデシュツアー

2016.12/5～12/11

おめでとう、バングラデシュ支援30周年

1985年に本協会がバングラデシュでプロジェクトを始めて、これまで多くの皆様のご協力に支えられ順調に支援活動が続けることが出来ました。12月9日、エンゼルホームでバングラデシュ支援30周年を祝う記念プログラムが行われました。これまでエンゼルホームを卒業した子ども達もたくさん集まり、感謝のスピーチや歌や踊りなど様々な催しでお祝いしました。

月日の経つのは早いもので、バングラデシュで活動を始めて30年が過ぎました。母、川村百合子が初めてバングラデシュを訪



れた時に「この国の人々に教育を与えたら、きっと発展していくだろう」と考え、日本の多くの人に呼び掛けて支援を始めました。

最初に預かった小さな子達は立派な大人に成長しました。また、多くの学生の方や女性達が、今幸せな人生を歩んでいると聞いています。エンゼルホームの敷地にも大きな木が育ち、エンゼルに関わった人みんなの心のふるさtoなっています。今のこの様子を見て、母はどんなに喜んでいるのでしょうか。

現地のスタッフの方達、そして日本のボランティアの人達がずっと変わらず心を一つに支援してくださったおかげで、今日まで活動が続けることが出来ました。これからもみんなで力を合わせて、支援活動を続けていきたいと思ひます。

(東村眞理子代表理事、記念プログラム挨拶より)



エンゼルホームの卒業生達



記念プログラムの着物ショー



国旗を売っている方と記念撮影



仲島先生の講演に熱心に耳を傾ける生徒達



元気いっぱいのスリジヨニの子ども達と

YURIKO エンゼルスクール

YURIKOエンゼルスクールは「既存の学校カリキュラムに不足した面を補った本協会独自の学校を設立し、バングラデシュの未来を担う優れた人材を育成したい」という前代表・川村百合子の想いにより2005年に開校いたしました。この学校では通常の学習科目はもちろんの事、子ども達の人間的な器と豊かな感性を育てるため、さまざまなプログラムが行われています。今日も幼稚園児から中学生(10年生)までの子ども達が、のびのびと友情や思いやりの心を育み、いきいきと学んでいます。



～YURIKO エンゼルスクールで行われている学校行事～

運動会



バングラデシュでは乾期の1～2月に運動会が行われます。

言語運動記念日(言語の日)



2/21の言語運動記念日には文化祭を行い、壁新聞を作製したりダンスの発表会をします。

バングラデシュ新年祭



ベンガル暦の新年(4/14)のお祝いに、校庭で演劇やダンスの発表会やバザーや模擬店を出店して楽しめます。

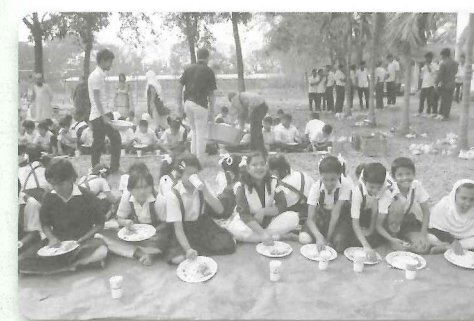


川村百合子氏を偲ぶ会

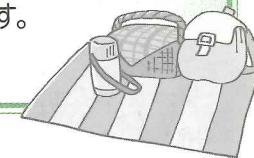


「バングラデシュを支える人材に育てて欲しい」前代表の川村百合子氏の想いを忘れないよう、毎年11/23に偲ぶ会が行われます。

ピクニック



外に出かけたり、広大な学校の敷地内でお弁当を食べたりします。



現地のホームページは [こちら](http://yurikoangelschool.com/) ▼

<http://yurikoangelschool.com/>



35年 ボランティアあれこれ

国際エンゼル協会設立以来35年間ずっとボランティアを続けておられる皆さんに、心に残った事、楽しい思い出などをインタビューしました！



阪神競馬場でのバザー

仁川にある阪神競馬場での夏のバザーは、夜遅くまで行いました。花火もあがり、お祭りのようで楽しかったです。いつもほとんど売り切りました！

(M・K)



三木バザー

初めてのバザーは道端にパラソル1本で、会員さんが作っている椎茸を売りました。人通りが少なく売れ残ってしまいましたが、次は人通りが多い夜店に出店しようと話し合い、わらび餅やバザー用品を置いてみました。見事にわらび餅は完売しましたが、暗い中では食器はあまり売れませんでした。その後、公民館の文化祭でバザーをした時はたくさんの方で、持っていった炊き込みご飯が飛ぶように売れて楽しかったです。

(M・N)



東京でのフリーマーケット

27、8年前、代々木公園でフリーマーケットをしました。50～60袋ほどのたくさんの衣類があり、黒いビニール袋に入れて手で持って駐車場から運びました。重くて重くて、引きずって歩いてしまいビニールが破け、本当に大変でした。それをブルーシートの上に、山盛りいっぱい広げて販売し、海外の人達がたくさん買って下さいました。

(K・M)

大阪鶴山台のバザー

初めの頃の鶴山台でのバザーは、当日朝5時からお手伝いの方のためにメンバー皆でおにぎりを作りました。何だかピクニック気分だったのが思い出です。当時はテントも机もなく、ブルーシートの上に商品を並べていましたが、山盛りの衣料品はたちまち売れていきます。昼過ぎには、日差しで鍋や食器はさわれないほど熱くなり、売り買いできない時もありましたが・・・なぜか嬉しかったです。(M・M)



運動会



阪神大震災の年に「沈んだ心を元気づけよう！」とエンゼルで運動会をしました。借り物競争に参加した時、紙に「バリさん」と書かれていて、バリさんを探して一緒に走ったのが楽しかったです。またその際、紅白のハチマキを400本作りました。(H・S)



炊き出し

阪神大震災の時は伊丹線が不通だったので塚口駅から歩いてエンゼルまでボランティアに来ていました。炊き出しは神戸で夜6時頃から行い8時頃に終了。その後泉南の家路に急ぎましたが、今思い出すとよくあれだけ夢中でやっていたなと思います。(S・M)



泉が丘バザー

堺市の泉が丘駅近くのショッピングセンターにお願いして、表玄関でバザーを行いました。チラシ配りから品物集め、備品まですべて自分達で準備しました。思わぬ品物を提供して下さい方がいたり、海外の方が背広等をたくさん買って下さいました。売れに売れてただただびっくりしました。(K・S)

グローバルフェスタ

地区バザー係りとして各地にお手伝いに行こうと決めて、初めて東京に行った時の事です。伊丹空港集合で主人に姫路から車で送ってもらいましたが、高速で車がパンクしてしまいなかなか直せず、通りがかったトラックの運転手の方に修理を手伝ってもらいました。おかげでなんとかギリギリ出発前に空港に着き、グローバルフェスタでのバザーのお手伝いに行くことができました。(M・U)



高砂バザー

高砂バザーも今年で25年目になります。やり始めたころは、皆さんに声をかけ、お願いすればバザーの品物となる贈答品がすぐ集まってきました。手探りで何も分からず皆で一緒に頑張ったあの時代が懐かしいです。(M・I)

ガイアシンフォニー開催

阪神淡路大震災に見舞われた1995年、地球交響曲「ガイアシンフォニー」の自主上映会を神戸垂水で行いました。この日は青森県の「森のイスキア」から出演者の佐藤初女さんに来ていただき、講演会も開催しました。

そして震災で傷ついた人々は心を温め、佐藤初女さんから元気をいただきました。その後も国際エンゼル協会とのお付き合いは昨年お亡くなりになるまで続き、バン格拉デシュを4回訪れてエンゼルホームの子ども達を励まして下さいました。訪バの折、2回ご一緒したのが、懐かしく楽しかった思い出です。

(T・O)



No.22

エンゼルホームの子ども紹介

アルアミン 君
Md. Al amin
(14才)



アルアミン君は3人兄弟の末っ子で、彼が3歳の時にお父さんを心臓の病気で亡くしました。その後、お母さんは3人の子どもをかかえて縫製工場で働いていましたが生活は次第に苦しくなり、彼は7歳の時にエンゼルホームに入所することになりました。

エンゼルホームにやって来たアルアミン君はサッカーが大好きで、毎日のように広いグラウンドでのびのびとボールを蹴って走っていました。もともと運動神経のいい彼はとてもうまくなり、将来はサッカーの選手になりたいという夢を持っています。

現在YURIKOエンゼルス쿨の6年生で絵や算数も得意です。穏やかな性格で協調性があり、いつもみんなと仲良く遊んでいます。これからも勉強や大好きなスポーツを一生懸命がんばって夢に向かって走り続けて下さい。

DCEFだより

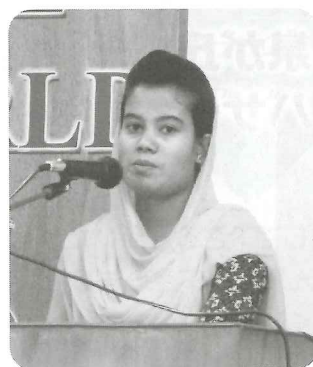
～バングラデシュ「奨学生の集い」でのスピーチより～



日本のボランティアの皆様、こんにちは。私はバングラデシュでこの活動を始めて下さった国際エンゼル協会前代表の川村百合子さんに対し、心からの感謝の気持ちを述べたいと思います。

私はガジプール県のカパシア村出身で、両親と私を含め4人兄弟の6人家族です。経済的に厳しい環境の中、兄弟達は中学校までしか学校に行けませんでした。でも私は幸運なことに2007年、高校生になった時からずっと奨学金をいただき、勉強を続けることができました。今までの人生の中で困ったとき、奨学生の集まりに来て聞かせていただいた励ましの言葉が頑張る力をくださいました。

無事、大学院を卒業できたら銀行員になりたいと思います。また、自分が自立できたら農村の学生達を助けたいと思います。国際エンゼル協会の皆さん、長い間助けていただきありがとうございました。



ファテマ・カトウン
(バウル・ボトレアロム・ガジプール
経営学大学院 2年生)

経済的に恵まれない発展途上国の子ども達に教育援助を行う里親制度。奨学資金の供与や学校校舎の建設・設備の充実、農村女性を対象にした識字教室等を行っています。また、バングラデシュ以外に、フィリピン、スリランカなどの子ども達にも支援しています。

連載コラム5

仲島正教の優しい風
～ Loving-wind ～

「私を待つ人がいる」



▲教育サポーター 仲島正教

1995年1月17日午前5時46分、阪神淡路大震災。あれから22年が経ちました。当時、自宅は半壊、そして私は大切な教え子や友人、恩師を亡くしました。

その年の暮れに自宅近くの西宮東高校で、高石ともや氏の講演会がありました。演題は「私を待つ人がいる」。講演を聴きながら私は流れる涙をぬぐうことができませんでした。そして「しっかり生きる」と強く誓ったのでした。

高石氏は「人間が生きていけるのは、待っている人がいるからだ」と言い、待っている人がいないと、人間は生きる意欲を失うというのです。

家には、私を待つ母がいる。教室には、私を待つ友達がいる。学校には、私を待つ先生がいる。あの角の向こうには、私を待つ恋人がいる。電話の向こうには、私の声を待つ大切な人がいる。遠くの田舎には、私の成長を喜ぶおばあちゃんがいる。こんなふうに、自分を待ってくれる人がいれば「人間は大丈夫だ」というのです。

彼は、こんなことも言いました。「人間は、友達が二人いれば幸せに生きられる」と。とってもつらくて死にたいと思った時、それを聞いてくれ「たいへんだったね」と一声かけてくれる友達がいれば、その重荷がスーと消えていくのです。また、うれしい時に「うれしい」と話せ、「よかったな」と一声かけてくれる友達がいれば、心が和み、希望に胸がふくらむのです。こんなふうに、一緒に悲しみ、一緒に喜び、自分を待ってくれる人がいれば、大丈夫なのです。幸せに生きていけるのです。と、彼は言うのです。

さあ、あなたはどうですか。あなたを待つ人は誰でしょう。

私には優しい母が待っています。僕にはいつも励ましてくれる友達がいます。俺にはどんなに悪いことをしても俺を信じて待ってくれる先生がいます。そんな人は幸せに思うでしょう。でもなかには、俺を待っている人なんかいない。私なんかを誰も待っていない。そんなふうに思っている人もいるかもしれません。「どうせ俺なんか」「私はいつも一人ぼっち」そんな声も聞こえてきそうです。でも嘆かないでください。「待っている人はいない」そんなことはけっしてないのです。あなたを待っている人は必ずいるのです。声には出さなくても、姿は見せなくても、名前は知らなくてもあなたのことを待っている人は必ず存在するのです。少なくとも、私は見たことのないあなたを待っています。

どんなに辛いことがあっても自分で命を絶ってはいけません。いじめによる自殺の報道に心が痛みます。そこまで追い込まれて本当に辛かったと思います。でもあなたはけっして一人ではありません。あなたを待っている人はいるのです。だから生きてほしいのです。あの人の分もこの人の分も生きてほしいのです。あなたは、たくさんの人が待っている大切な人なのですから。

高石ともや氏は、笑顔で次のことを話され、講演を終えました。
「幸せになるために、私たちは生まれてきたのですよ」

DCEF (ディセフ)とは…
[Developing Country Educational Fund]